

世界平和萬民幸福祈念 秋季立教例大祭

大和の光

11月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



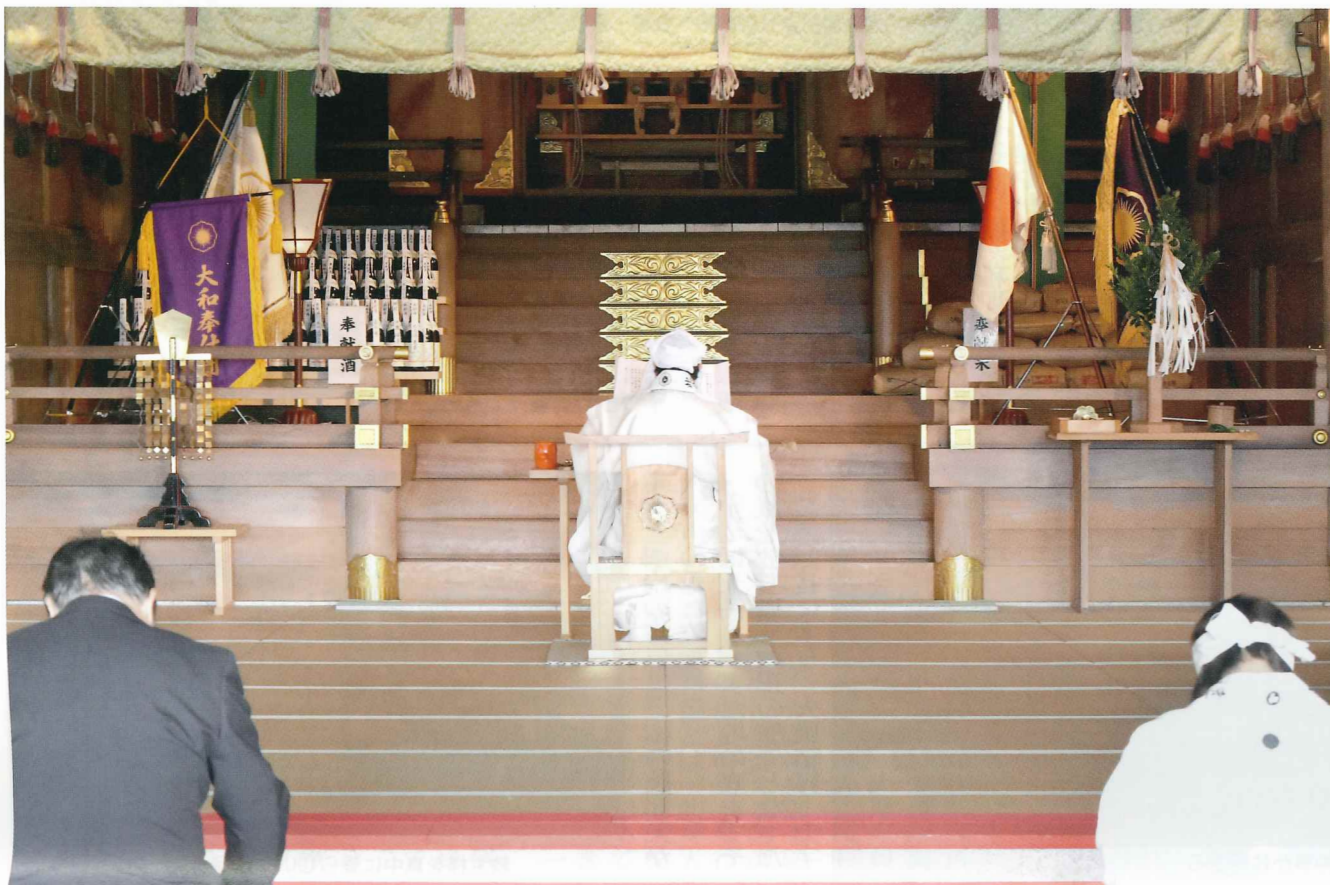
神紋

八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

大和の言葉

真心のこもった、その一
言が人を救うのである。

(大和神典 第四之一八三言)



この十月も忙しい月となった。こ
とに長年の想いが叶えられた嬉しい
月ともなった。

十月一日、月始祈願祭斎行。後、
九時半より教化会、講義をなす。

四日には第二十座目の御魂結之神
儀が斎行される。

五日は身延山参拝に品川教師団長
にて一泊二日で出発した。

八日には事務総長夫妻随同にて、
親戚である石巻の湯殿山三山大神教
さんにて、生前大変お世話になりし

叔父さんを始め四柱の霊神様に感謝
の御霊祭りを斎行して頂いた。

管長保積克彦先生には誠に丁寧な
る儀式を奉仕下された。四柱之霊神
に心よりの感謝を申し上げた。

私が小学生の頃、夏休み、冬休み
の時はよく泊りて遊ばせて頂いた想
いがある。

私が友人より譲り受けた御品が五
十余年ぶりに克彦先生より私に返戻
された。叔父さんが預かりそのまま
になっていたものであった。

今後、御神器として儀式で使用さ
せて頂きたいものと思っている。新
たに求めるかと思っていた時に、

大変有り難きことであった。

直会の時に、八十九歳になる大姉
も参席され、祖父敬一郎さんより小
学生時代に聞かされていた身上のこ
とを話された。驚くべき詳明なる記
憶であった。

開祖様よりの記録にはないことも

知るものとなった。驚きであった。

そして大変有り難い、嬉しい日と
もなった。

御神導、御霊導の賜物と拝謝すも
のである。

帰庁なし、夕刻に田中君、鏡君を
召して、京都井筒さんに早速脇差の
袋と納箱を発送すべく指示す。

また、二十一日には大本の本部長
の小林龍雄先生と東京宣教センター
長の橋本伸作先生がご来山表敬参拝
を下された。

小林本部長より出口教主様のおこ
ころをお聞きし、感動と感謝の念で
涙溢るるを禁じ得ずであった。

私も傘寿を迎え、そして教統継承

の祈願を拝した。

開祖様は三回の裸一貫となられた
記録がある。私も然りであった。

そして、今も大きく試練に科されて
いる。如何な苦勞も神が与えし試練
として、真向う勝負をして乗り越え
ねばないと決意している。

これまでの多くの修行で得た力を
發揮するはこれからと覚悟するもの
である。

八十歳にもなれば世の中の多くの
人は晩年期であろうが、私は晩年期
に入つたと心得うものである。苦勞
は楽しい修行として完うしたいもの
と念じている。

一日いちにちを信奉者の為に、世
の為、人の為に捧げてゆかねばない。

開祖様が詠まれた

大神の 恩頼の 吾が生命
世人のために捧げ尽くさん

の宗教人生を、惟神の大道を歩まね
ばないものと信念すものである。

信奉者の皆も大和の信仰生活であ
る「祈りと感謝と奉仕の生活」を実
践なし、「此の身このまま神身とな
る」神身成就の信仰生活をして頂き
たいものと乞い希うものである。

今日あるは
開祖の御陰と 手を合わせ
ひたすら祈る
今日も 明日をも

平成五年四月二十七日詠

令和七年十月二十九日
教主 秀胤

あ

教主秀胤

発

大和立教六十八周年 秋季立教例大祭 大火祭祈願祭

十一月二日午前九時、齋主教務総長により、大和立教六十八周年秋季立教例大祭前日祭が大國神社御本殿



齋主教主様のもと世界平和・心願成就祈念がなされた



大鳥居前より御本殿へ祭員・供奉員参進

ご本殿にての儀式修祭後、一同は大國神庭へ参進申し上げ第四十一回世界平和萬民幸福祈念の大火祭祈願祭が執行された。開祭詞の後、修祓、御浄所役により浄められ、宝弓神事では

大鳥居前にてお祓いを受けた白装束の随員は「大和立教六十八年・天地一切清浄大神業」と声高らかに奉称しながらご本殿へと参殿。齋主教主様は東回廊より御入殿なされ、典儀による開祭詞にて祭儀は開祭となった。齋主教主様により厳かに祝詞が奏上された後、煌びやかな衣装をまとい、お化粧された稚児が親御様と入殿、稚児祈願が執行され健やかなる成長をご祈念申し上げ、教主様、教務総長、祭員と共に記念撮影を行った。稚児等の愛らしい姿は一同を和ませてくれた。

大鳥居前にてお祓いを受けた白装束の随員は「大和立教六十八年・天地一切清浄大神業」と声高らかに奉称しながらご本殿へと参殿。齋主教主様は東回廊より御入殿なされ、典儀による開祭詞にて祭儀は開祭となった。齋主教主様により厳かに祝詞が奏上された後、煌びやかな衣装をまとい、お化粧された稚児が親御様と入殿、稚児祈願が執行され健やかなる成長をご祈念申し上げ、教主様、教務総長、祭員と共に記念撮影を行った。稚児等の愛らしい姿は一同を和ませてくれた。

翌三日、午前九時半より、秋晴れに恵まれた大國神社において、立教六十八周年秋季立教例大祭本祭が齋主教主様のもと厳肅に斎行された。



祭員により宝弓神事が執行さる

東北と西南の方位に三本の破邪矢が大発声のもと放たれた。宝弓は天高く、また地の底までその威を放ち破邪顕正の聖矢となった。教務総長により、火風結界、十字神傳が執行され御火壇に点火、御神火が天空高く立ち昇ると、火祭祭員と供奉員により、平和串特別祈願成就への願いの込められた幾万本の祈念串が掛け声と共に次々と投火され、



教主様を真中に愛らしいお稚児さんたち

皆さん本日は大変ご苦勞様でした。ご本殿の儀式では肌寒かったため、ご挨拶は控えさせて頂きました。こうして秋晴れの中で皆さんとお祈りが出来たこと感謝申し上げます。祈りには力があります。ただ拝んでいるだけでは駄目なのです。大和の祈りは、天地を貫く祈りです。この世も彼の世も御霊様の世界も全てに通じるという気持ちを持って皆さんは神拝詞を拝んで下さい。響きの波動が力となります。響きが伝わっていき、天地を貫きます。

拝神禱の、「天界地底踏破卓立」とは、天の世界、地の世界を貫く状態です。大和の祈りはそうではなくてはなりません。この地上のどんなに高い山でも、どんなに深い海でも、何処にでも伝わっていくという、そういう祈りを皆さん心掛けて頂きたいのです。ただ拝んでいるだけでは力はそのことです。先ず皆さんは自分の心に響かせて下さい。自分の中に神様が宿るのですから。自分の命に響かせるような、そういう祈りを心掛けて下さい。この大和拝は全人類を救う、世界国家を救うという祈りの作法です。私はとても反省して

大太鼓が打ち響く中、参列者は大祓詞等を奉唱、教主様による特別神咒が執行され、教務総長の剣祓により悪魔調伏がなされた。続いて一同神威開頭御幣を手にし、火祭壇を三度廻る神人和楽のおはやし行事が行われ、稜威をご拝受申し上げた。教主様より御親教を賜つて後、祈禱殿にて直会を和やかに頂き「大和大國舞」を舞い、秋季立教例大祭は修祭となった。



教務総長により剣祓が執行さる

昨日の朝二時頃、不思議な夢を見ました。夢というのか、何なのか、突然今日の御神煙のお香のような煙がたなびいているのです。そのお香が比禮の如くになって、今度は龍蛇体となり、龍神のお顔も顕現されました。私は今迄、拝んできて龍神様は見たことがありませんでした。はつきりとした龍神様で、お髭も手の爪もありました。驚いて飛び起きて「今のお姿は何なのでしょう」と御神託をしました。すると「神光龍神の姿を汝に見せた」とのことなのです。そのお姿の次は大國主大神がおわしました。大和教団神光殿にて毎月神光龍神祭をお仕え申し上げますが、出雲の神にお仕えする龍神様です。我々は太皇主大神を大物生大神ともお称え申します。大きくもの

おります。ただ「神よ広く守り給え神よ広く導き恵み給え」として、唱えていてもそれだけの力が発揮出来るでしょうか。私は出来ないと思っております。ですから改めて、この祈りだけで救われますよと、大國主大神様がそうして私たちに授けたのです。

「ご祈禱でこの世の悩みは解決出来るけど、あの世に行ったらどうなるか、考えたことはあるか。」と。この世で救われて幸せだとしても、その人が幽世に行ったらどうでしょう。皆さんが思っているような、ああ幸せだという様な思いが、幽世で通用するのでしょうか。幽世にはお金や財産、名譽、地位も、何も持たずに行けません。あるのは思い、心だけなんです。魂の光です。それはご祈禱をしてもらったからといって、清まるものではありません。自分が自分の信仰の力で清めるしかありません。此の身このまま神身となるには、大和の祈りをきちんとすることです。

を生き与える、「もの」は、「もの」ではありません。「心」です。「魂」です。と申されております。私は今、これまで開祖様もそうであつたように、沢山の人の病を、悩みをご祈禱させて頂いてきました。一所懸命、皆さんのために祈つて参りました。中々難しいものは特別の祈りでお救いを致してきました。開祖様はこの様に申されました。「ご祈禱でこの世の悩みは解決出来るけど、あの世に行ったらどうなるか、考えたことはあるか。」と。この世で救われて幸せだとしても、その人が幽世に行ったらどうでしょう。皆さんが思っているような、ああ幸せだという様な思いが、幽世で通用するのでしょうか。幽世にはお金や財産、名譽、地位も、何も持たずに行けません。あるのは思い、心だけなんです。魂の光です。それはご祈禱をしてもらったからといって、清まるものではありません。自分が自分の信仰の力で清めるしかありません。此の身このまま神身となるには、大和の祈りをきちんとすることです。



神威開頭御幣を手に祈念申し上げる参列者一同

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう



大國神庭の大火祭祈願祭御神火に龍神之象の顕現を見る

す。それが万物一切を弥栄に致します。自分の幸せだけでは駄目なのです。世の中は争いの連鎖です。アメリカもロシアも自国のためにだけです。弱い国は強国に従うしかありません。私たち大和は共に存在して共に栄えるのです。天皇陛下がそういう大御心をお示しあそばされております。共存(きょうそん)共栄(きょうえい)なのです。家族も小さな社会ですから、お互いが存在して栄え合い助け合うことです。どうぞ皆さん、このような世の中からこそ、正しい信仰生活と願うのです。幽世に持って行けるのは皆さんの心と魂の光だけです。

どうぞ、この世で出来るだけ徳を積んで、せめて五人位の人を信仰のともがらとして導き、ともに信仰を深めて頂きたいものと願っております。今日は大変ご苦勞様でした。

難行苦行をすることでもありません。誰でもなれるのです。大和の祈りというものが、もう少し深く噛みしめて、神様が何を私たちに教えて下さっているのかを感じながら祈ることです。心を豊かに清めなければなりません。その力が感謝です。祈りと感謝と奉仕です。感謝は自分の心を豊かにするのです。人間一番大切なことは、自分の命です。家族のため、この人のためと言っても、自分の命、体が弱ければどうにもなりません。自分というものの命に手を合わせるのは、自分を生んでくれた父母、父母、そして神様に連なります。だからご先祖様、神様を大切にさせて頂くのです。私たちの体には六十兆の細胞があるといわれます。五十代の先祖、父母を辿ると億兆の数の先祖となります。そして毎日の食べ物、身体を支えるために頂く、そういう命も頂いておられます。大和では万物一切に感謝と説きま



御神火に平和祈念串を投火す

御魂結之神儀



斎主教務総長による神威神授之儀が執行された

教務総長御教話

御神水による御清神事が執行された。参行者は秘神事執行の後、平素は立ち入る事の許されない大床(だいど)へと昇殿、斎主より一人ひとりに神威神授之儀が執り行われた。斎主玉串拝礼、代表者による玉串拝礼に続き、参行者全員に尊き御神器が神授され修祭となった。結びに斎主より御教話を頂き、今年の神儀は無事修められた。

皆様ご苦勞様でした。今年は二十年目の巡りの年を戴いての御魂結之神儀をお仕えさせて頂きました。今年が初年度の方、こちらの桐箱を開けてみて下さい。御霊石(みたまいし)という神様と結ばれた結魂石が入っております。お祈りをする際に、こちらの御霊石を胸や頭に当てたり、手に含んでみたりと何時でも自由自在にお使い下さい。この御霊石は段々重くなると聞いております。拝む時に色々と行ってみて、神様の御力を沢山頂いて欲しいと思います。出掛ける時

十月四日の夕刻、大國神社御本殿を齋場に本年二十度位を迎える御魂結之神儀が斎主教務総長のもと執行された。御魂結之神儀とは、親神大和皇大神の神魂と教信奉者の御魂を「魂乃緒結び」によって結び固めて、大神様の大神威を拝し奉る尊き畏き神儀であり、計二十一年をもつて一巡りとなる秘儀神業である。白装束に身を包んだ参行者は、儀式の説明を受け、修祓之儀にて心身を祓い清め、一同は祈禱殿大前にて列立、齋場の御本殿へ肅々と参進、御本殿へ入殿後、座して暫し瞑目、銅鐸の音が静かに響き渡る中、心静かに時を待った。斎主教務総長が御入殿、典儀より開祭詞が告げられ、齋主による秘神儀が肅々と執行された。引き続き祝詞が奏上され、参行者と代参行者が大前に言上げられた。次に振魂神名奉称にて順に神々をお称え申し上げ、大祓詞を奉誦、麻比禮神事、開運御神水と天真名井の

力です。この力をどのように頂くかです。先ず神様にお願いをします。御神器の輪は動きまわります。輪を広げて神様の扉を開き、そして自分の願いを掛けます。祈り念じてぐっと結びます。扉を開けるといふことです。皆さんの願いを神様に届け、結んで頂くのです。祈り、願いを結んで願ってもらいます。大きな力のある魂乃緒結輪です。私たちの母親との臍の緒、神様との魂の緒、ご先祖様との霊(たま)の緒、神様の魂と皆様の魂が結ばれるという、力のある御神器です。このような専用の御台も用意しており、求めたい人は教師に申し出下さい。こうして拝む時に置いておくことも出来ます。今回二十年目ということでは蜂比禮(はちのひれ)寶璽を戴きました。初めての方は大和御祖之命神璽です。この大和教団・大國神社を樹てられた開祖様です。私共の教祖である開祖様を表しており、開祖様の御尊称は沢山御座います。そして二十一年にてひと巡りという御魂結之神儀です。秩父の皆さんは今年十九度位です。弛まなく祈り続けられて良かったですね。皆さんにひとつお教えしますことは、皆さんの命は本心に尊いのです。皆さんは自分の命、魂というものを、神様から綿々と命、魂を受け継いで、ご先祖様、父母から受け継いでもらって、こうして私も皆さんも、一人一人、この美しい素晴らしい日の本の日本国に、この地球に生かされています。皆さんは命を燃やし魂を輝かせて磨いてやがて必ずあの世に行くのです。自分はどういう世に生きていくのが良いのでしょうか。大事なことは他人様に貢献することです。年をとったからとか、若いからとか思わずに、とにかく貢献し、助け、導き、勇気付けることです。それが皆さんの命の働きです。何時かは分かりますが、必ずや参る魂の世界、永遠の世界へ行くまでにどうするかです。

感謝の心を表して、常に笑顔を表し、他人様を助けていって下さい。そうしていつの日か、自分の命を終えるわけです。あの世に持っていくものは思い、心です。それ以外は何も持っていないけません。あの世にどんな心を持っていくかです。永遠の魂の世界に入る前に、何時行っても良いように笑顔と感謝というものをしっかりと稽古して、貢献して自分の人生をこれから力強く歩んで頂きたいと思えます。神様、ご先祖様の、父母の尊い命を受け継いでいるということを忘れずにいて下さい。皆さんは神様ですから。色々なことはありますけど、もともとと明るく楽しく元気で居て下さい。悩みや苦しみ、病氣もありますけど、皆さんは神様の魂を、命を頂いている神様の子供なのです。やがて神身となるのです。この世においても神の如く生きるのです。「此の身こそまま神身となる」というのが、大和の教えです。皆さんは力のある尊い存在です。お互いに尊重し合って、人間の尊厳をしつかりと守って、この世が争いのない、笑顔に溢れた素晴らしい世界になるようにと、世界平和の為に毎日祈り続けて頂きたいと思えます。世界平和と萬民幸福のために先ず祈ることから、出来ることからです。貧困や飢餓で苦しんでいる人たちの為に、二百円という浄財を積み上げて、苦しんでいる人たちの為に皆さんの祈りを込めた平和祈念串をどんどん積み上げて施して参りたいものです。それでは皆さん、大祭でまたお会いしたいと願っております。本年は立教六十八周年、二年後には七十周年を迎えます。その為にもどうぞ皆さん今年の立教例大祭にはご家族共々皆さんでお参りされて、一緒に感謝の祈りを捧げて参りたいと思えます。それを今日はお話しさせて頂いて令和七年御魂結之神儀の結びとさせて頂きます。おめでどう御座いました。

大本様 大國神社表敬参拝

十月二十一日の午後二時、京都府綾部市梅松苑と亀岡市天恩郷にご本部を構える大本様の本部長の小林龍雄先生と東京宣教センター長橋本伸作先生が大國神社を表敬参拝をなされ、教主様と懇談をなされた。

到着後、先ず御本殿において正式参拝が修められ、記念撮影の後、祈禱殿特別室へのご案内を申し上げ、暫しの間、教主様、教務総長、事務総長と懇談をなされた。懇談は多岐に亘り、出口紅教主様の東日本大震災を被災した東北への思い、また本教への御心を拝し奉り、教主様は熱い涙を流され、心からの感謝を申し上げた。

此度はご聖務ご繁多の折、遠路よりご参拝を下さりましたこと心より感謝申し上げます。



御本宮広前にて教主様と共に記念撮影

秋の清掃奉仕

敬信謝の実践

十月二十六日、大國神社において午前九時より大神様のご守護のもと、

「敬信謝」の顕現である秋の清掃奉仕が執り行われた。

先ず御本殿において始奉告の儀をお仕え申し上げ、教務総長よりご挨拶を頂き、男性は立教例大祭特大幟旗十八旗を掲旗、女性は本宮周辺の草取りや窓拭きなど各所の清掃をさせて頂いた。綺麗に清美された神庭と天空に聳（そび）ゆる雄壮なる大幟旗で秋の大祭を迎えられますことに心から感謝申し上げます。

奉仕者御芳名(順不同・敬称略)

金子三保子 熊谷 親子 伊藤 政代
内海 宏幸 佐々木映子 宮下 告
本田 瑛恵 菊地眞知子 竹本 悌子
鈴木 順子 阿部 栄子 熊谷由美子
福原 祐 小野寺 雅 佐藤日出子
咲山 真美 咲山 竜光

皆様のおこころに感謝と御礼を申し上げます

神恩感謝料奉納者御芳名

金一封 教主様

幣帛料奉納者御芳名

金壹拾萬圓 菅原 昌彦
金貳萬圓 相双分祠一同
金貳萬圓 庄内分祠一同
金壹萬圓 斎藤 斤子 須田 公子
三陸分祠一同

立教例大祭奉賛者御芳名

金壹拾萬圓 秋田グループ
金伍萬圓 紺野 和子
金参萬圓 大和コウケン(株)吉田 来
金貳萬圓 金子 峰生
庄内分祠一同 三陸分祠一同
金壹萬圓 金子 弘子 金子三保子
金壹萬圓 阿部 勝雄 酒井 友子
横尾 兼剛 鷺尾 雅子 遠藤 恭子

荒稲奉納者御芳名

遠藤 晴光 菅原 桂子 安達 菊雄
安付 仁 遠藤 浩由 川上 賢一
川村ヨシ子 齋藤 秀政 佐藤 利孝
金伍万圓 阿部 良子 加藤 裕美
菊地 孝子 國分由美子 作間 由枝
武田 良子 丹治 くに 増澤 一
見澤 正明 森 裕子 阿部 正弘
随 意 品川 弓 阿部 央子
石川 洋子 内馬場博子 菅野 ゆか
木下 和子 佐川 邦夫 佐藤 央子
水沼 由美 佐川 邦夫 佐藤 央子

御米奉納者御芳名

米二袋 相双分祠一同 庄内分祠一同
佐藤日出子 島山みつよ
中島 忠 菅野テル子
熊谷 寛 今田としゑ
横山 満也 齋藤 秀政
とりふじ弁当・藤原啓子
米一袋 熊谷 拓也
米随意 小野寺桂子 熊谷 拓也

御酒奉納者御芳名

御神酒三升 相双分祠一同
御神酒二升 庄内分祠一同
三陸分祠一同
御神酒一升 秋之宮教会 島山真由美
阿部 勝雄 遠藤 美雪 苅宿 幸子
窪田 秋子 桑折 信子 木幡 安典
佐々木教雄 高田 隆広 田淵 好子
星 英 星 啓義 星 栄子
星 ひろみ 細川きみ子 細川 達也
本林 秀尚 向山しげ子 目黒 利恵
八巻 宏美 大和コウケン(株)吉田 来
酒井 友子 熊川 俊長 熊川 知長
小野寺弘匡 佐々木大介 佐藤 世志
山本 陸雄 須田 公子 須田 昌義
銀持 敦子 若松 順子 中澤 優一
遠藤 恭子 遠藤 晴光 吉田 好男
吉田由美子 安達 文子 安達まつ子
阿部 鶴子 安附キヨ子 安藤重希子
石川 鷹子 伊東 咲香 遠藤 能夫
遠藤 良子 大久保英章 大友 圭吾
加藤 晴子 金ケ瀬正子 川上 英莉
川上 文子 川村 安美 川村由美子

奉納品奉納者御芳名

川村ヨシ子 金成 裕司 菅野 靖久
菅野 隆久 菅野 友久 菅野 弘久
熊谷 武友 黒田 雄介 小池 凜音
齋藤 公志 齋藤 幸子 坂口可菜子
作間 由枝 佐々木 淳 佐藤 啓義
佐藤 高司 佐藤 初美 庄内 和佐
菅原 孝 鈴木 和男 瀬川智恵美
立川 静子 立川 知 館内 海
丹治 くに 千葉 恵子 豊島 秀幸
中村 明文 縄田 瑠衣 早川 信子
船水 紀克 松井 純逸 丸岡 清文
渡辺 良雄 佐藤日出子 咲山 真人
株式会社ユウ工業

12月行事予定表

(十一月十四日迄分・敬称略・順不同)

12月1日 朔日火祥神事

12月5日 一年之御神託祭

12月7日 惟神道統百二十八年開祖様御生誕百十八年祭

12月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭

12月15日 御神具御清・御取替神事

12月22日 冬至星祭

12月25日 六根修養会

12月29日 御神具御清・御取替神事

12月31日 大祓

1月行事予定表

1月1日 歳旦祭・新年火祭初祈禱

1月5日 寒行寒祈禱・神光龍神祭

1月11日 初月祭・祖霊万霊祭

1月12日 御教え事始め

1月14日 進学合格祈願祭

1月15日 寒中火祭謹行(2/3)

1月25日 特別禁厭祈禱・どんと祭

1月28日 月次祭・五講祭

1月29日 開祖祭

女性総理誕生に思う

ついこの間までの暑さが嘘の様に、朝晩の冷え込みも増し、大市山の本々も美しく色づいて参りました。そんな穏やかな日常とは裏腹に、相変わらず政治の世界では少数与党であるがための混迷を極めております。

「内閣総理大臣指名選挙」が十月二十一日午後一時から、国会で行われ、衆議院、参議院ともに自民党総裁である高市早苗氏が選出されました。心からの祝意を表します。高市総理の誕生は我が国憲政史上初の女性総理の誕生となり新たな歴史の幕明けとなりました。

当然、常日頃「女性差別撤廃」、「男女平等」、「女性の権利」と、声だかに叫んでおられる女性議員、また女性の有識者と呼ばれる方々にとつては本来喜びをもって迎え入れるべき出来事であるのにも関わらず、それとは真逆な反応を示される方が多いことこそが、左翼思想の矛盾、自己都合の顕現であると妙に納得をさせられるものでした。

高市総理の外交デビュー、国会論戦等につきましては既存のテレビ、新聞の報道において、特にワイドショーの様な番組では「下げ」のコメントが大半であることを鑑みても、その深層部まで左派勢力が拡大していることは否めませんが、最新の内閣支持率は八十パーセントを超えるものもあり、これはテレビを見ない、新聞を読まない、所謂オールドメディアに扇動されない方々が増えている証左であるのかと存じます。

高市総理には今後も様々な妨害工作もあることでしょうが、国益を第一として、この国の舵取りを全うして頂きたいものと期待をするものです。今世はこうしたフェイクニュースが大量に溢れている現況を踏まえ、私たち大和の信仰者は正しい情報を見極める力を持たなければなりません。

それには自分自身の正しく心づくりが大切です。常に六根を清め、正しい心と正しい眼(まなこ)で正しい判断をして頂きたいと願うものです。(平松千明)



家族の星を清め新しき年の運勢を大きく開く
令和八年丙午歳
運勢開運特殊神事
冬至星祭

令和七年十二月二十二日(月)
午前零時(三十一日深夜)参行
大國神社